

第 3 回 館山市議会定例会会議録
(第 3 号)

1 昭和62年9月17日(木曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1番 脇田 安保
3番 田沢 勝信
6番 山崎 雅己
8番 鈴木 勝美
10番 鈴木 忠夫
12番 榎本 春光
14番 小宮 利夫
16番 石井 昌治
18番 日下 君敏
20番 福原 勤
22番 黒川 平治
25番 渡辺 昭夫
27番 林 豊

2番 永井 龍平
5番 岩村 勝弘
7番 生稲 陞
9番 山口 康雄
11番 神田 守隆
13番 山中金治郎
15番 横溝 功
17番 石井 謀
19番 川名 正二
21番 辻田 実
23番 流山源次郎
26番 近藤 好雄
28番 飯田 義男

1 欠席議員 2名

4番 庄司二三男

24番 松下 正己

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 山田 俊康
総務部長 飯野 芳郎
経済部長 安西 良一
教育委員会 福原 修
教育委員会 長

助役 小倉 澄男
市長公室長 錦織 茂
民生部長 渡辺 弘
水道課長 石井 敏夫

1 出席事務局職員

事務局長 庄司 利光
書記 鈴木 哲
書記 加藤 浩一

事務局長補佐 兵藤 恭一
書記 土橋 康彦

1 議事日程(第3号)

昭和62年9月17日午前10時開議

日程第1 議案第28号 損害賠償の額の決定及び和解について

- 日程第 2 { 議案第 29 号 昭和 62 年度館山市一般会計補正予算 (第 2 号)
 議案第 30 号 昭和 62 年度館山市国民健康保険特別会計補正予算 (第 2 号)
 議案第 31 号 昭和 62 年度館山市老人保健特別会計補正予算 (第 1 号)

開 議 午前 10 時 03 分

○議長 (飯田義男君) 本日の出席議員数 26 名、これより第 3 回市議会定例会第 3 日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長 (飯田義男君) 日程第 1、議案第 28 号損害賠償の額の決定及び和解についてを議題といたします。

質疑 応 答

○議長 (飯田義男君) これより質疑を行います。

通告はありませんでした。御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長 (飯田義男君) ただいま議題となっております議案第 28 号はお手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

○議長 (飯田義男君) 日程第 2、議案第 29 号乃至議案第 31 号の各議案を一括して議題といたします。

質疑 応 答

○議長 (飯田義男君) これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

(11番議員神田守隆君登壇)

○11番(神田守隆君) 議案の第29号昭和62年度一般会計補正予算の第2号につきましてお尋ねをいたします。

議案書の13頁、民生費の中で保育所費として臨時職員賃金691万8000円についてお尋ねをいたします。

保育所の定員割れということが取りざたをされているときであります、臨時職員を増員するということではありますが、それはなぜなのか。

特に、ゼロ歳児やあるいは3歳未満児の場合には、子供3人に1人の保母さんをつけないといけないとか、大変保母さんの手間がかかろうかと思うんでありますが、ゼロ歳児や3歳未満児の保育実績がこの間どういうふうになっているのか御説明をいただきたいと思います。

また、今後、こうした保母さんの増員については、臨時職員ということではなくして、保母として増員をするということが必要なのかどうか、その辺についてのお考えはないのかどうかお聞かせをいただきたいと思います。

次に、14頁であります、清掃費の中でじん芥処理費ということで同じく209万3000円の臨時職員賃金が計上されております。説明書によりますと、金属類(危険物)の作業をするのだということが説明の中で書かれているわけではありますが、これまでこうした金属類(危険物)の作業についてはどのようなになさっておったのか。

また、臨時職員ということで当面、対策はとれるのでありましようが、今後どのように考えておるのかお聞かせをいただきたいと思います。

次に、同じく14頁の農林水産業費の中で、農業振興費ということで野菜産地総合整備対策事業補助金2615万円が計上されております。説明書の説明によりますと、館山市農協でコンピュータを導入する、それに対しての補助金というふうに理解はできるわけではありますが、こうしたコンピュータの導入の効果はどのようなものなのか。

また、このコンピュータ導入の目的は野菜産地総合整備対策事業というように計画生産出荷の遂行であるとか、市場動向の把握などというふ

うに説明をされているわけでありますが、例えば野菜にこだわらずに花卉類ですとか、あるいは果樹類ですとか、同様のことがいえるのではないかと思うわけでありますが、コンピュータでありますからその他さまざまな利用ということが当然考えられると思うんですが、こうした利用方法の点についてはどのようにになりますか。制約があるのかないのか、この辺についてお聞かせをいただきたいと思います。

また、他の農協ではコンピュータのこうした導入状況についてどういふふうになっているのかお聞かせください。

次に、15万円でありますが、商工費中、観光費ということで委託料500万円、海洋性リゾートタウン基本構想関連調査委託料として計上されておりますが、この点についてお尋ねをいたしますが、まずこの調査の委託先はすでに決まっておるのかどうか。決まっているのだとすればどこに調査を委託するのかお聞かせください。

また、この調査委託の内容はどのような内容なのか。さらに、この調査はいつまでに終わると期限があるのかないのか、その期限について御説明をいただきたいと思います。

さらに、また、この調査の結果、報告書が出されると思うのでありますが、この報告書の扱いについて、当然公表されるべきものと思うのでありますが、この点についてはどうなっておりますか。

以上、お尋ねをいたしました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

まず、第1点、民生費臨時職員についてでございますが、零歳児、1歳、2歳児の保育実績につきまして過去3年間を見ますと、公私立あわせて昭和59年度零歳児22名、1、2歳児149名、昭和60年度零歳児28名、1、2歳児131名、昭和61年度零歳児26名、1、2歳児155名となっております。うち公立につきましては昭和59年度零歳児12名、1、2歳児91名、昭和60年度零歳児15名、1、2歳児82名、昭和61年度零歳児18名、1、2歳児87名となっております。零歳児が少しずつふえ、1、2歳児は横ばいという状況で

ございました。

昭和62年度になりますと、8月末現在で零歳児31名、うち公立26名、1、2歳児154名、うち公立89名と零歳児が公立で大幅に増加しております。

保母の増員の必要があると思うが、という御質問でございますが、昭和61年度までは年度当初には保母設置基準に数名余裕のある保母の配置をしておりましたが、昭和62年度は零歳児の入所の大幅な増によりまして、年度開始間もなく保母数に不足を生じ、臨時職員によって対応しておりますが、今後ともこのような傾向が続くようであれば保母の増員ということも検討しなければならないと思っております。

次に、衛生費臨時職員についてでございますが、金属類の処理につきましては、従来は粗大ごみ処理施設の受け入れホッパーに直接投入し、職員の目選別により処理をまいりました。しかし、廃棄物の種類やその内容も多種多様化しており、金属類の中には処理困難物や危険物も相当数含まれてまいりました。このような状況から、現在は金属類の収集日であります第1、第3、第5、第6週に臨時職員2名を配置し、粗大ごみ処理施設前の踊り場で手選別をし、処理しております。

今後とも、市民の意識が確立するまでの間、手選別方式により処理をしなければならないと考えております。

次に、農業費野菜産地総合整備対策事業補助金についてでございますが、まずコンピュータの導入効果はどうかという御質問でございますが、現在、使用しておりますコンピュータは超小型のため記憶容量及び処理能力が小さく、生産農家に対し十分なサービスができないというのが実情でございます。これらを解消すべく新機種のコンピュータを導入し、これにより精算事務及び振込事務の迅速化とあわせて市場情報、産地情報の提供が可能となります。また、これらのシステムの効率的な運用を図っていくため、専門校で学んだ職員を配置し、総合的な事務処理を行うことにより、農協事務の合理化が期待されているところでございます。

次に、目的外の使用もできると思うがどうかということでございますが、ただいまお話のございました花卉類の情報等は目的内の使用でございますが、ただ金融事務につきましては、昭和54年4月にコンピュー

タを導入いたしまして、千葉県信用農業協同組合連合会の統一システムによりまして単独で運用しておるわけでございます。したがって、新機種のコピュータは目的以外には使用しない予定でございます。

次に、他の農協の導入状況でございますが、県内におけるコンピュータ導入農協は鴨川市ほか13農協で、各市町村の補助率はおおむね10%でございます。

次に、観光費海洋性リゾートタウン基本構想関連調査委託料についての御質問でございますが、まず、第1点、委託先についての御質問でございますが、株式会社野村総合研究所に委託したいと考えております。

この調査につきましては、市議会全員協議会及び建設経済委員会において御説明をいたしましたとおり、現在、重点整備地区の指定を受けるための調査を実施しておりますコンサルタントでございます。

次に、第2点、調査委託内容はどうかという御質問でございますが、予定をしております調査内容といたしましては、まず第1、市のリゾート開発を取り巻く外部環境、2、地域開発の必要性、可能性及び開発条件等、3、開発に伴う基盤整備の方向、4、海洋性リゾートタウン構想の具体化方策、5、海洋性リゾートタウン構想における各地区の整備方向等を考えております。

次に、第3点、期限はいつかという御質問でございますが、リゾート法に係る国、県の動きが早まっており、これらに対応すべく本年度内に調査は完了したいと考えております。

次に、第4点、報告書は公表するのかという御質問でございますが、リゾート法に基づく地域開発は民間活力によるものでございますので、民間事業者の動向等に配慮しながら慎重に対処してまいりたいと考えております。

◎11番（神田守隆君） 保母さんの問題については、特にゼロ歳児が非常にふえてきておるということで、今年度が特にふえたということで増員の臨時ということで出ているようであります、これが一時的、一過性のものであるのかどうかという、その辺の判断ということになるんですが、今の御答弁によりますと、今後ともこうした傾向が続くんだという前提に立てば保母の増員の必要性がある、こういうようなお話で

したから、そこで、これが館山市だけの傾向なのか、おそらく私は、全県的な傾向としても、こうした働く婦人の社会参加の動向からしますと、そうした傾向は何も館山の特殊事情ということではなくて、おそらく全県的な傾向なり、あるいは全国的な傾向なりということであるんじゃないだろうか、その辺については、市当局におきましてもそれなりの情報を得ているんじゃないかと思うんですが、もしその辺御説明いただけたらどうかということです。

それから、じん芥処理の問題ですが、今後も手選別において処理しなければならないということでもありますから、臨時職員という不安定な身分で長期にわたるということはどうかと思いますが、現在のセンターの人員だけでは十分できないということから臨時職員をとということなんでしょうが、市民の中に危険物等についての趣旨が徹底して出てこない、そういうものが混入しないということになれば要らなくなりますから結構なことだと思うんですが、そう簡単にというわけにもいかぬでしょうから、となれば、一定の人員の配置等今後考えなければならないという問題を含んでいるんじゃないかと思うんですが、この辺についてはどうなのか。

それから、コンピュータの関係で、金融関係についてはこのコンピュータは使わない、野菜に限らず花卉類あるいは果樹などについても市場動向の調査等、生産農家に情報を提供したり、サービスができるんだということでもありますから大変結構なことだと思いますし、市でもこうした助成金を出すことでですから、効率的な活用ができるように、ぜひそういう点での配慮をお願いしたいと思います。

それから、観光費の海洋性リゾートタウン基本構想——前年度で海洋性リゾートタウン基本構想調査などを行って、たしか調査業者については決め方が今回のように初めから決まっていたというのではなくして、一定の業者の競争によって決めるというやり方をとったように思うんですが、今回は野村総研ということではっきり初めから決まっておるということで、いろいろな事情があるかと思うんですが、それはそれでわかりましたが、今の内容を見ますと、調査委託の内容そのものはリゾート法との関連で、今後の市の施策との兼ねあいで、極めて重要な内容の

調査であるという受けとめ方をいたします。

そこで、期限も今年度内ということでもありますから、大変危惧する問題なんですが、民間活力の動向を配慮しながらということで、この調査報告書が公表されるのかという点なんです。非常に今度のリゾート法の大きな問題点じゃなかろうかという気もするんですが、市で市民の税金によって調査をやるわけですから、市民がその内容について知り得るということは市政の原則的な考え方で当然のことだろうと思うんです。ところが、実際には情報が公開されるということで、例えば土地の先行取得等の問題で、今はやりの地上げ屋さんが活躍するとか、こういう問題点が出てくるわけです。

私は、やはりこういう点で、情報の公開は当然の前提じゃないかと思うんですが、先ほどの御答弁でははっきりしたことが伺えない、民間の動向を配慮しながら対処したいというんだから、公開するのかな、しないのかなというのが全くわからない。市政の基本に係る問題だと思います。しかも、この結果によって1000億、あるいはそれ以上になるんだか、膨大な規模の資金投下がされる、当然市政の上で大変今後大きな、いわば市政の死命を制するということにもなりかねないわけです。

端的に言いまして、政府がやることというのはいつもうまくいったためしがないということがあるわけです。新産都市の問題にしる、何にしる、地元が膨大な資金投下をしながらうまくいかなかった、結局そういう場合に——これがリゾート法によってうまくいけば万々才なんです。だれからも文句は出ないんです。だけど100%うまくいくという保証はどこにもないわけです。失敗した場合だれがその責任をとるんだ、だれがその負担をとるんだということが当然出てくるわけです。こうした危険負担のあり方の問題、責任分担のあり方の問題というのも大変大きな問題だと思うんです。

そういう点を含めて、あくまでも企業はもうかるから来るんでありますから、もうからないとなればさっさと撤収するでありましょうし、その場合、残されたのは膨大な資金の負担だけが残ったということになったらとんでもない話ですから、しかもこうした計画を進めるにあたって住民にとってその情報が公開されないとか、民間業者への配慮からわか

らないとかということであいまいにされていたんでは大変なことだと思うんです。ですから、こうした事業の重大性があればこそきちんと情報公開なりを考えなきゃいけないのじゃないかと思うんですが、公開の原則についてはどうなのかいま一度御見解をお聞かせいただきたいと思います。

○民生部長（渡辺 弘君） まず、第1点の保母の中途増員についての県下の傾向はどうかという御質問でございしますが、内容につきましては把握してございませんが、一般的に考えれば館山市と同じような傾向があるとは推測できます。御案内のように現在の女性の勤めの態様といたしましては多く共稼ぎが行われておるわけでございまして、結婚され、そのまま勤務されている関係で年度中途におきまして保育園への措置を依頼するということが多かろうと思います。したがって、年々出生率は下がっておりますけれども、傾向的にはこのような傾向があり得るんじゃないかと考えられますけれども、昭和62年度におきましては先ほど市長から答弁がございましたように、非常に中途におけるゼロ歳児の措置が多いわけでございまして、そのようなことから今回補正をお願いいたすわけでございます。

それから、2点目の選別の人員の配置について、職員の配置をすべきではないかという御質問でございしますが、これも一義的にはやはり市といたしまして分別収集についてPRをいたし、市民に協力を呼びかけているわけでございますが、現実の問題といたしましてはガスボンベをはじめ引火性ガスのカートリッジ式のボンベ等が多く出ている現状にございます。そのようなことから現在手選別による選別をお願いしておるわけでございますが、金属類の収集につきましては隔週行われておりますこと、また環境生活課を中心といたしましてカートリッジ式のガスボンベの穴あけ等を多く使用するであろう民宿、旅館、ホテル等に直接出向きまして、その協力を依頼しておるわけでございます。このようなことにつきましてもさらに市民の間に拡大し、分別収集の徹底を図ってまいりたい。その時期になりますと当然手選別の方法はなくなるわけでございますので、早い時期にそのような体制を組んでいくよう努力してまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

○経済部長（安西良一君） 神田議員さんの御質問にお答え申し上げますが、確かに地域振興を図る上では土地の取得ということが一番大きな問題だろうと思います。そこで、議員さんからもお話がございましたように、いわゆる虫食い状態に用地がほかの方に確保されてしまいますと、いかに大きな計画でありましてもつぶれてしまう、実行ができないというような大変難しい問題が起きてくるわけでございます。そういったこともございます。そんなようなことから発表といいましょうか、それらについては一層慎重を要するのではないかと。

しかしながら、これらの事業を進めていきますのには当然地権者の協力も得なければなりません。また、地域の方々の協力も得なければならぬというようなこともあるわけでございます。そういうことから議員さん方、あるいは総合計画の審議会の委員の皆さま、あるいは産業団体、特に漁業関係の方々だとか、あるいは商工団体だとか、そういった方々がこれらに該当するかと思いますが、そのほか町内会を主体といたしました地域の団体の皆さま方に、それぞれの時期に応じましてよく御説明申し上げ、御理解を得たいというような考えを持っております。したがって、一般的に公開ということはできるだけ慎重にしたいというように現段階では考えております。

以上でございます。

○11番（神田守隆君） 調査報告書の公開の問題でありますけれども、通常、こういう問題については、株式会社野村総研さんですか、情報をいかに早くつかむかということが、手練手管を含めまして通常大変行われるわけでございます。ですから、情報が、こういう計画ですよというのが、時間の経過がありまして、言ってみればずっと後の方で公表されても意味がないという場合が往々にしてあるわけです。そのときになってからこれは大変だ、大問題だからやめるべきだという話になっても、もうすでにやめられないという時期に公開されてもしょうがないんです。やはりその辺の判断をするには、それなりの時期にきちんと公表されるということがぜひ必要だと思います。

それと、逆に、株式会社野村総研さんがどういう民間会社と資本的な

系列があるとか——いろいろあるわけですね。実際に民間会社の場合にはいろんなつながりを持っているわけですから、そうすると館山市当局よりもはるかに早く大手大企業の方が情報を正確に知っているなんていうことも往々にしてなきにしもあらずだということがあると思うんです。そういう点では業者を信頼するしかないという、それだけじゃちょっと心配な気がするんですが、その辺については情報の保全といいますか、この辺はどうなのか。その辺をひとつお聞かせいただきたいと思います。

○経済部長（安西良一君） この計画が一応まとまりまして、調査書が出てまいりまして、それを市なりに検討いたしまして、どういう方向でいきたいというような計画がまとまりました段階で、やはりできるだけ早い時期に指定がございましたら、今、いろいろ市の方に働きかけのあります業者と折衝をしなければならないというようなことが起きてくるわけでございます。

今回、私どもが考えておりますのは、その計画がまとまった段階で野村総研さんをコーディネーターといたしまして進出したいという企業側と市といろいろ話し合いまして、研究、検討を加えまして、そして詰めていきたいというふうに考えております。したがって、一応計画ができたならばできるだけ早い時期にそういう方々に対しては御相談申し上げるというふうに考えております。

○議長（飯田義男君） 以上で11番議員神田守隆君の質疑を終わります。

続いて、18番議員日下君敏君。御登壇願います。

（18番議員日下君敏君登壇）

○18番（日下君敏君） 私は、議案第29号昭和62年度館山市一般会計補正予算第2号について2点ほどお聞きいたしたいと思います。

議案説明資料で申しますと、7頁、まず第1点、第7款の土木費でございますが、道路新設改良事業といたしまして210万6000円が計上、補正されております。説明によりますと、市道1031号線外1路線につきまして用地測量、物件調査、不動産鑑定、その他を行うということに説明されておりますけれども、具体的にいま少し内容をお聞かせ願いたいと思います。

次が、同じ7割の商工費で海洋性リゾートタウン基本構想関連調査事業について500万円の補正計上がされております。この問題につきましては、ただいま神田議員からその時期とか、委託対象先、そういったことが御質問され、御答弁ございましたものですから、ほぼそれについては了解いたすところでございますので、それとダブりますので、具体的な要項につきましては理解させていただいたところでございます。

そこで、私は、リゾートタウン調査につきまして、この調査書ができてから実施に移るという段階に関連してお聞きいたしたいんでございますが、ただいまの答弁で調査書は年度内にできるということでございます。ですから、来年度から調査書に基づいて実施に移されるんであると思うんでございますが、これまでもいろいろこういう基本構想とか、調査書とかいうものは何度もいろいろなところで出されておるんでございますけれども、こういった調査内容が単に絵に書いた餅にならないように——過去、幾つかそうしたものがあろうかと思うんでございますが、現時点ではこの安房地方も半島振興法に指定され、リゾート法の重要地域でございますが、それに対して指定がなされようというところでございます。東京湾横断道もいよいよ実現されるという時期でございます、これまで典型的な過疎でございました安房地方にもようやくこの10年間は日があたらうかというときでございます。それだけにここで出されます調査書が実りあるようにさせる配慮が必要だろと思うんです。

そこで、お聞きいたしたいんでございますが、この調査と並行いたしまして、頼む先は野村総研ということでございましょうが、それとは別個にあるいは並行して関係諸団体にいろいろな意見を聞く意思はないのか。例えば、関連いたします漁業協同組合とか、地域住民とか、あるいは有識者等々に調査と並行して意見を聞いて、場合によっては別途推進協議会なり、研究会なりを設置する必要があるかと思うんでございますが、そういった御配慮をいたす気はあるのかどうか、このリゾートタウンについてはお聞きいたしたいと思います。

御答弁によりまして、再質問させていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 日下議員の御質問にお答えをいたします。

まず、第1点、土木費の道路新設改良事業についてでございますが、市道1031号線の関係でございますが、市立北条幼稚園北側の道路と市庁舎東側の主要地方道富津館山線とを結ぼうとするものでございます。

この事業の目的は、国道127号、富津館山線並びに館山バイパスを結ぶことにより、市街地内の交通網の整備、さらに交通渋滞の緩和を図ろうとするものでございます。

長年の懸案であります未解決問題につきましても、地権者の方々の深い御理解を得まして、工事に着手したいと考え、今回その事業に係る用地測量、物件調査、不動産鑑定の委託料の補正をお願いするものでございます。

次に、市道1125号線の関係でございますが、高井の神社周辺の道路拡幅に伴いまして用地買収が必要でございますので、そのための不動産鑑定の委託料の補正でございます。

次に、商工費海洋性リゾートタウン基本構想関連調査委託料についての御質問でございますが、まず、リゾート調査と並行して地域住民、有識者、漁業協同組合等の参加による機関を設け、推進できないかとの御質問でございますが、海洋性リゾートタウン基本計画の策定、特にリゾート法に基づく重点整備計画の作成とこの推進につきましては、各開発整備に関係する産業団体及び地域団体との意見調整に努めてまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○18番（日下君敏君） 道路改良工事は、えらい難しい御答弁でございましたが、要すれば、市役所のすぐ東側の和泉理容店さんと隣のところへ来る道路ということでよろしいんですね。

あそこにつきましては、北条幼稚園の北側から通じて来る道路と理解しているんですが、これまで12mの大きな道路がありまして、長い間道路ができておりましたものですから、あの周辺に家も張りついてきておるんですけれども、あそこに参りますには保健所の方からぐるりと回って、大分関係住民の方々が大変御不便を感じておったんじゃないかと思うわけでございます。

今回、このように補正予算が組まれましたということは、あそこの道

路問題について市が解決に向けて動き出したんだというふうに御理解しているのかどうかということが第1点。

それと、地権者は山本政雄さんと小山英一さんのお二人だというふうでよろしゅうございますか。経済部長いいですか。——地権者は山本さんと小山さん、お二人だ、こういうことでございますね。

それと、この問題は、この道路につきましては、着手してから20年間近くも未解決にされておった問題だというふうに聞いております。この間、市御当局はいかなる対応をなさってきたのかお聞きいたしたいのが第2点でございます。特に、この15、6年間は何ら交渉もしていないというようにも聞いておるんですが、何か市と地権者たる山本、小山、御兩人との間に行き違いがあったのかどうか、なぜ放置されておったのかお聞きいたしたいというのが第2点でございます。

この問題は、10数年間——20年間近くの長きにわたって据え置かれておったものですから、実はいろいろなうわさが出ておったわけでございます。あるいは国会議員が行って御説明をなさったとか、あるいはまた市の関係者が県会議員にお願いして伺ったとか、そういったいろいろなうわさが出ている。ほとんどこのうわさは地権者たる小山さん等々を逆に刺激するよううわさが多かったんでございますが、こういったうわさが本当にあったものかどうか、それをお聞きいたしたいというのがこの道路問題に対する質問の第3点目でございます。

このリゾートに関しては、意見調整ということに努めたいという御答弁でございます。ひとつ前向きにこれは御検討願いたいと思うんですが、このリゾート法に関連しまして、先ほどの質疑の中にもございましたように、大手の民間企業が館山にコンタクトしてきているというふうに聞いておるわけでございます。複数といいましても3、4つの複数ではなくて、数10社に及ぶほどの大手民間企業がすでにリゾート法を前にして館山市に接近をしてきておる、市御当局にも来ておるというふうにもお聞きするんですけれども、大体どの程度の数、どういう関係の企業が参っておるのか、市御当局が把握なされておる限度で結構でございます、あるいはリゾート法の重点地域に指定される前でございまずので発表できないというところもあると思いますから、その点は当

然うちの方でも考慮させていただいて、そちらさまで発表できる範囲であるいは把握している範囲で結構でございますが、どの程度のものがきっておるのかお聞かせ願えればと思います。

○経済部長（安西良一君）　まず、市役所の北側を通っておる道路と北条幼稚園の裏側に通じます道路の問題の関係でございますが、1点の、市側として解決に向けて考えているのかという御質問でございますが、御承知のように館山バイパスが近々のうちにできる運びといいたいまいしょうか、見通しがついてまいったわけでございます、それと、いわゆる館山駅に通じます道路としてネットワーク上も大変重要な道路であるというようなことで、今年どうしてもやりたいということで計画を練りまして、今までとんざしておりました道路問題でございましたが、今年から解決に向けて努力しようではないかというようなことで動き出したわけでございます。

それから、今までの交渉はどういうような足どりをたどったのかということでございますが、ちょっと記録が飛び飛びになっておりまして、開発公社から建設課というような形で動いておるものですから、この間にあったかとは思いますが、記録が残っておるものだけで御案内させていただきますと思います。

44年から交渉に入っておるようになっております。その後、何年まで交渉が続けられたかということがちょっと記録では不明確でございますが、その後、昭和50年度にいろいろお話し合いをしておるようでございます。そして、50年の8月ごろまでの記録が残っておりますが、それ以降はとだえておるということでございます。そして、今年7月に入りましてから3たび目の交渉に入ったという経過でございます。

何か交渉にあたっての行き違いがあったのではないかという御質問でございますが、これにつきましては、私も実は2回、課長、補佐を伴いまして口あけのお願いに行ったわけでございますが、その感触といたしましては、やはり役所側からの一方的な無理なお願いだったという点も確かにあったかと思えます。

それから、本人側からはどうなのかということでございますが、これらについてもちょっと明確ではございませんけれども、やはりのめない

ものもあったんではないのかなという感触でございます。

それから、もう1点は、話し合いの中で、今すぐに協力しても北条幼稚園の裏に通ずるだけの道路になってしまうのではないかなというような地権者側のお話もございました。したがって、バイパスができた時点で協力しようではないか、そういうようなこともあったようでございます。

それから、いろんなうわさをたてられて困ったという話があるけれどもというお話がございましたんですが、これも、私は御本人からお伺いしたことでございまして、確認はしてございませんが、どうもうわさがうわさを呼んで小山さんに御迷惑をかけたのかな、そんなようなイメージを抱いたわけでございます。

道路につきましては、大体そのようなところでございます。

それから、リゾート関係でございしますが、どのような関係企業が何社ぐらいあるのかという御質問でございしますが、ごく大まかにまとめたものでございますが、総合建設業、観光レジャー業、運輸交通業、金融業、コンサルタント、不動産関係を扱う大手の方々、あるいはその他鉄道、造船、商社、こういう企業の方々が館山市に対して触手を伸ばしておるということでございます。全体的には35社、現状ではございます。

以上でございます。

○18番（日下君敏君） ただいまの御答弁でおおむね理解させていただくところでございます。

いずれにしても、道路の建設は、先ほどの御当局の御答弁にございましたように、バイパスもできるというようなところでございますので、もはや時期にきたと思うわけでございます。過去の経過を今お聞きしますと、やはり市御当局もお認めになっているように、市の対応方がいまひとついわゆる行き届かなかった点があるんじゃないか。俗に、親切なやり方というか、かゆいところに手が届くというか、そういった方策なり配慮なりがややもすれば不足がちだったのではないかな、こう思うわけでございます。むしろ、小山さん等々の地権者側の方が被害者の立場にあったかもしれぬわけでございますので、地権者の立場をよく御理解して、またよく御理解してもらっていると思うんですが、その立場を理解した上で一刻も早く問題解決の処理にあたるべきだと思うわけでござい

ます。改めてその辺の御決意をお聞かせ願いたいと思います。

また、当然、あそこができますと、もう一つのネックは役所の北側の不動院のところの道路があそこだけ細くなっているわけです。労働基準監督署ですか、あすこに官庁がございますが、あすこまでが広がってそこから先が細くなっておりますが、それとも当然この道路が関連してくると思いますので、あそこの不動院前の道路についてはどのような考え方を持っているのかということをお聞きいたしたいと思います。

リゾート法につきましては、35社も来てるおるということでございます。この企業が実は本当の中核でございますので、先ほど私が申し上げました研究会なり推進会なりをこういった企業者の方々も入れて、あるいは意見を聞いて、参画させて、委員会なり協議会なりをつくるべきであるというふうに思うんですが、先ほどの神田議員に対する御答弁の中にもそのようなことがあったと思うんですけれども、こういう企業に対してどのような考え方を持っておるのかお聞きいたしたいと思います。

○経済部長（安西良一君） 役所の裏側の関係はどうなるのかということでございますが、現況では御指摘のように大変狭いわけでございます。車が1台通れば人もなかなか無理だというような現況でございます。したがって、今年度すでにそれと、それから北条小学校の裏にかけまして、全体的に道路設計を委託をしてございまして、現在調査を進めておる段階でございます。それができましてから、市役所の裏にお寺さんがあるわけでございますが、道路際の方に墓地が相当数、30基といひましようか、それくらいあるわけでございます。これらにつきましてもこれから交渉をもっていきたい。また、もう一軒お寺さんの借家にお住まいの方もいらっしゃるわけでございますが、これらについてもお話し合いを進めていきたいというようなことで現在進めておる段階でございます。

それから、もう1点の、これらの計画について関係団体と話し合うつもりはないかというお話でございましたが、これにつきましては先ほど、市長の方から御答弁がございましたように、産業団体として農業関係あるいは漁業関係、観光関係、商工関係、これらの方々、あるいは地域の団体といひましようか、直接関係のある町内会、あるいはコミュニティ

関係、青年会議所、そのほか近代化研究会、これらの方々の意見もお聞きいたしまして、事業を進めていきたいというふうに考えております。

（「問題を処理していただけるかどうか。御意思を改めてお聞きしたい。」と呼ぶ者あり）

地権者の立場に立って考えてもらえるかということでございますが、やはり私どもは法律とか、条例とか、あるいは要綱とか、そういう範囲があるわけでございます。したがって、これらは当然守らなければならない、一線は引かなければならないというふうに私は認識しております。しかしながら、これらの法の範囲といたしましうか、そういう範囲内で地権者の立場に立って、いろいろとお助けができるというようなものにつきましては前向きで処理をしていきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○議長（飯田義男君） 以上で18番議員日下君敏君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（飯田義男君） ただいま議題となっております議案第29号乃至議案第31号の各議案はお手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

延 会 午前11時02分

○議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は、明 9 月 1 8 日午前 1 0 時開会とし、その議事は昭和 6 1 年度
各会計決算の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第 2 8 号乃至議案第 3 1 号